

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=2392700023-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>外出支援に力を入れており、管理者・職員は外出を特別なことではなく当たり前の生活の一部と捉えている。利用者個々の希望を満たすため、様々な場所への外出支援を実施している。日常の散歩、個別外出・グループ外出・遠出、庭で行うグランドゴルフ等の工夫があり、ボウリング大会には車いすの利用者も参加して楽しんでいる。調査日も、日課の散歩に職員と楽しそうに出かける利用者がいた。複合施設の一角にあることから、ホーム周辺を出歩く地域住民は少ないが、地域との交流を積極的に行っている。運営推進会議には住職や幼稚園の職員、民生委員等が参加しており、住職による毎月の御経や法話があり、お寺の盆踊りや幼稚園の七夕祭りには招待がある等、積極的に地域と交流を図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ同士共通意識をもち入居者の想いに寄り添い安定した生活を送っていただけるように心がけている	玄関に法人理念が掲示されている。管理者は職員の自主性を尊重し、職員が考えた理念の構築を目指している。「立ち戻る原点」とは何かを模索している段階であり、理念の作成に至っていない。	早急なホーム理念の作成が望まれる。管理者と職員とが日々の生活の中で理念を共有し、実践が理念に基づいたものになるように取り組んで行くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方、お寺さん等に來ていただいで利用者さんも楽しませている。幼稚園の行事や地域のイベントに時々参加している。	地域の盆踊りや近隣のお寺の花祭り、幼稚園の七夕会等に利用者と共に参加している。子供獅子の立ち寄り所であり、中学生の福祉体験やボランティアを積極的に受け入れており、双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや学生の職場体験を通して介護の現場を体験してもらったり、近くの喫茶店や商業施設へ行き認知症への理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、そこで出た意見を参考にサービスの向上に努めている。	会議には行政・地域包括支援センター・民生委員・幼稚園の職員・住職・病院の看護師・利用者等、多彩なメンバーが集まる。利用者の生活するユニットで開催し、ホームからの報告やメンバーからの意見・助言がある。	家族・知見者の参加を促して会議を充実させ、目標達成計画の進捗状況を報告し、目標の達成に向けた検討の場となるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と運営推進会議という機会を通して共にサービスの向上に取り組んでいる	運営推進会議への高齢介護課・地域包括支援センター職員の参加や、介護相談員の受け入れ等によりホームの状況や取り組みは行政に伝わっている。入居状況の問い合わせ等、担当者とは協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の理由や拘束につながる行為、言葉の制限などを理解するように努めている。 センサー等を状況に応じて使い分け出来るだけ施錠しないよう努めている。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解しており、玄関、ユニット間には原則施錠はない。スピーチロックについても職員同士が気を付けあい、夜間の大声で他の利用者への影響がある時は、家族に相談、同意を得て医師の指導で眠剤を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、話し合い防止に努めている 虐待に当たる行為を防止するため、対応に困っていることを話し合い解決策をみんなで考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など詳しく理解出来ていない事が多い。 今後勉強会などで学ぶ機会があれば参加し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解の無いように十分説明し、話し合い納得してもらえるようにつとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は出来る限り、すぐに対応、解決するように努めている。 面会に来られたときなどに利用者の状況を説明しながら意見や要望を聞き反映させるようにしている。	殆どの家族の面会が月1回あり、利用者の状況を説明し、意見・要望が言い易い関係作りに努めている。家族から「鞆を持つと落ち着きます」との提案を実践したところ、利用者が落ち着いた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに申し送りノートがあり情報を共有しミーティングを行っている。 日常的に職員からの意見が出やすい雰囲気を出すように努めている。	職員の意見・要望は「申し送りノート」に記入し、ユニットリーダーを通じて管理者に届く。管理者は職員の自主性を大切にしており、ユニット毎で話し合っている。職員からは、「話し易い環境」との言葉があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の安定した生活環境が整えられている事を前提に柔軟にやりがいをもって働ける就業環境が整えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の各種研修に参加している。 研修に一人でも多くのスタッフが参加し、統一された支援を提供出来ることを目指していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり無いが、母体が同じグループホーム同士の交流、意見交換が出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して入居ができるように、体験入居の期間を設けており、ホームの雰囲気を経験してもらってからの入居が出来る。家族や本人から不安な事や要望などに耳を傾けて出来る限り出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームでの生活を納得して入居を決められるために体験入居の期間を設けている。入居時に本人の意見や家族からの要望を聞き話し合いを行って、必要に応じて連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居された方は期間中に本人様の認知症状を確認し、どこまで介護が必要なのか職員間で話し合い状況を家族に伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を一緒に送っている雰囲気を出すために、一緒に家事を行ったり、くつろいだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来やすい、話やすい環境作りを心がけて、家族との連絡を取り合うように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会に来られるような雰囲気作りをし、関係が途切れないように心がけている。	馴染みの人の面会は少ないが、親戚や孫が訪ねて来ており、関係が継続できるよう支援している。活け花が趣味の利用者はホームの所々に活けた花を飾り、化粧や入浴後のビールを嗜む習慣も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の手伝いなど利用者同士が協力して手伝ってもらってる。コミュニケーションが苦手な利用者様は職員が間に入りコミュニケーションが取りやすいような環境になるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族より相談があれば適切に対応出来るように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活から利用者様が望んでいる事を理解できるように努めている。	余り喋らない利用者は、表情・行動等から思いや意向を汲み取るように努めている。不穏な利用者の発した言葉「みたらしを食べたい」に沿い、馴染みのみたらし屋に出掛けたところ、不安が軽減した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族にどのような生活をされていたのか尋ね、日々の会話の中から生活歴や趣味、好みを探し思い出してもらい、穏やかに過ごしてもらう工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をよく観察し、生活記録から職員全員が利用者の心身の情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での変化に気づき家族との連絡やスタッフ間で話し合い利用者の現状に応じたケアが出来るように努めている。 気付いたことは職員間で相談、反映出来る環境づくりを心がけている。	利用者・家族からの意向・要望や居室担当者の意見を反映した介護計画を作成している。 1ヶ月毎に居室担当者がモニタリングし、3ヶ月で計画作成担当者がモニタリングをして「その人らしい」介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人らしさ、日々の様子が分かる記録の方法を心がけている。 出来るだけ詳細に書くように心がけ情報を共有できるよう努めている。一ヵ月ごとの確認を担当にしてもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意見を取り入れたサービスの提供につとめ、臨機応変な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中に近所の喫茶店や散歩、スーパーへの買い物など外へ出かけられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ内の病院や利用者の必要に応じて別の病院に定期的に受診している	協力医への受診のため、定期的に出掛けており、毎週、訪問看護師による体調管理を受けている。かかりつけ医の受診は家族対応であり、必要に応じて文書・口頭で情報提供・収集し、支援に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問があり、気になることがあれば相談をしている。看護師が直接利用者と会話をし利用者も安心して生活がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	異変があり次第、即座に定期の病院必要に応じて別の病院に入院できるような環境である。協力医へ定期的に受診している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医師、職員等と話し合い、事業所で出来ることを納得がいくような形で取り組んでいく。	契約時に、重度化した場合(立位が出来ない等)や医療的ケアが必要になった場合には退居となる旨を伝え、同意を得ている。退居する場合は、家族・医師・ホームとで話し合い、法人内他施設の最も適した住まいへの住み替えを行う体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練が不足しており、実践力がつくよう、勉強などに参加して努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、定期的に防災訓練を行い災害時には即対応できるように努めている。	年2回の防災訓練(日中・夜間想定)を行い、通報訓練・避難訓練を実施している。平屋であることから、水害時の避難場所として隣接している老人保健施設と連携がとれており、備蓄も置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や表情を見て声掛の仕方や言葉使いに気を使い否定的になるような言葉をかけないように努めている。	利用者の呼称については「さん」付けで呼び、トイレや入浴時にはカーテンを閉める等、プライバシーに配慮している。フロア内ではイニシャルを使用して話し、個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話をしやすいように言葉をよく聞き、介護者側が完結するような質問をするのではなく自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に、業務が破綻しない程度に寄り添うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の選択ができる利用者にはしてもらい本人の意思決定を大事にしている 行事や外出の時以外にも普段からなるべく化粧やマニキュア等をして気分を変えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全、衛生面に気を配りながら調理の準備、片付けをしてもらっている。 その人の出来ることにあわせて調理、盛り付け、配膳下膳をしてもらっている。	利用者の意見を聞いて法人内の栄養士にメニューを見てもらい、利用者の力量・要望に合わせ、包丁で切る・皮むき・味見・盛り付け等の役割がある。週1回のおやつのお買い出しは利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立に沿って調理している。 摂取量が少ない人はその人の好きなものを提供したり補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週2回の義歯洗浄をし、必要に応じて舌ブラシや歯間ブラシも使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から排泄パターンを把握してトイレへの声掛けを行っている。 自力で排泄を行ってもらい、出来ないところを介助するようにしている。	自立している利用者の排泄確認は、さりげなく誘導して1対1で聞くようにしている。介助の必要な利用者は表情や仕草から機を見て誘導し、利用者個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように水分補給や牛乳、バナナ等の食物、体を動かしてもらう事で便秘の予防を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく一日おきに入浴できるようにしている。 拒否したときは無理に入浴してもらわずに時間をずらして声掛けをするようにしている。	利用者の要望があれば毎日の入浴も可能であるが、週3回を基本としている。拒否のある利用者には同性介助、時間・日にちを代える等、柔軟の対応がある。柚子や菖蒲を用いた季節感を楽しむ工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によって昼寝をされている方もおり、本人の体調によって休息していただいている。 一人ひとりにあった睡眠パターンを知り不眠の場合は原因を考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の内容や副作用に関する書類は職員がすぐに把握できるよう分かりやすい場所に保管している。誤薬を防ぐためスタッフ間で再チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去にやられていた事で出来ることがあれば、作品づくりや調理などに生かしてもらっている。会話や装飾作り、レクリエーション、中庭での食事など一日を楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週一回の買い物や2ヶ月に一回の喫茶外出、季節に応じた外出などを行っている。 近所の散歩や買い物など不定期に行う事もあり、希望があればなるべく取り入れるよう努力している。	近隣散歩は日課であり、毎週1回の買い出し、個別外出や、職員2名と利用者2名で行く喫茶店外出、買い物、年3回のグループ外出等の工夫がある。ボウリングやウインドショッピング等、利用者の思い思いの所に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理、お金が手元にないと不安を感じている利用者には家族と相談した上で所持していただいている。買い物をした際レジでお金を支払っていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを家族や知人に送っている。ホームから電話もかけられるが、自分で携帯電話を持たれ家族等へご自分で連絡を取っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下、居室など季節感をあじわってもらうために、季節に合った飾り付けをしている。飾りも毎月皆さんと一緒に楽しみながら作っている。 利用者様の好みのBGMを流したりしている	ユニットを挟んだ庭にはウッドデッキや花壇があり、季節を感じるができる。リビングの一角の畳スペースには檜炬燵があり、温かさを醸し出している。季節を感じる掲示物があり、廊下の椅子でゆっくり過ごすことができ、清潔で落ち着いた環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやソファで気のあった利用者同士がくつろげる場所がある。 各ユニットにソファを2つ置いているので一人でゆっくりくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスやソファなどの家具を置いている。本人の好きな飾りを部屋に飾ったり置いたりしていただいている。	入居時に使い慣れた物の持ち込みを依頼しており、馴染みの仏壇・鏡台・箆笥・ソファ等が持ち込まれている。「自分で出来た」感が味わえるように支援し、利用者と職員が共に掃除をして清潔な居室を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分からなくなる方には部屋の入り口に暖簾や飾り付けをして自分の部屋だと認識が出来るようにしている。 ADLにあわせたベッドや家具、ポータブルトイレの配置をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	愛知県津島市葉苺町字綿掛55番地		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=2392700023-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出を多く取り入れたり、様々なボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ同士共通意識をもち入居者の想いに寄り添い安定した生活を送っていただけるように心がけている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方、お寺さん等にきていただいて利用者さんも楽しませている。幼稚園の行事や地域のイベントに時々参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや学生の職場体験を通して介護の現場を体験してもらったり、近くの喫茶店や商業施設へ行き認知症への理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、そこで出た意見を参考にサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と運営推進会議という機会を通して共にサービスの向上に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の理由や拘束につながる行為、言葉の制限などを理解するように努めている。 センサー等を状況に応じて使い分け出来るだけ施錠しないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、話し合い防止に努めている 虐待に当たる行為を防止するため、対応に困っていることを話し合い解決策をみんなで考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など詳しく理解出来ていない事が多い。 今後勉強会などで学ぶ機会があれば参加し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解の無いように十分説明し、話し合い納得してもらえるようにつとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は出来る限り、すぐに対応、解決するように努めている。 面会に来られたときなどに利用者の状況を説明しながら意見や要望を聞き反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに申し送りノートがあり情報を共有しミーティングを行っている。 日常的に職員からの意見が出やすい雰囲気を出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の安定した生活環境が整えられている事を前提に柔軟にやりがいをもって働ける就業環境が整えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の各種研修に参加している。 研修に一人でも多くのスタッフが参加し、統一された支援を提供出来ることを目指していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり無いが、母体が同じグループホーム同士の交流、意見交換が出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して入居ができるように、体験入居の期間を設けており、ホームの雰囲気を経験してもらってから入居が出来る。家族や本人から不安な事や要望などに耳を傾けて出来る限り出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームでの生活を納得して入居を決められるために体験入居の期間を設けている。入居時に本人の意見や家族からの要望を聞き話し合いを行って、必要に応じて連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居された方は期間中に本人様の認知症状を確認し、どこまで介護が必要なのか職員間で話し合い状況を家族に伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を一緒に送っている雰囲気を出すために、一緒に家事を行ったり、くつろいだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来やすい、話やすい環境作りを心がけて、家族との連絡を取り合うように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会に来られるような雰囲気作りをし、関係が途切れないように心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の手伝いなど利用者同士が協力して手伝ってもらってる。コミュニケーションが苦手な利用者様は職員が間に入りコミュニケーションが取りやすいような環境になるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族より相談があれば適切に対応出来るように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活から利用者様が望んでいる事を理解できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族にどのような生活をされていたのか尋ね、日々の会話の中から生活歴や趣味、好みを探し思い出してもらい、穏やかに過ごしてもらう工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をよく観察し、生活記録から職員全員が利用者の心身の情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での変化に気づき家族との連絡やスタッフ間で話し合い利用者の現状に応じたケアが出来るように努めている。 気付いたことは職員間で相談、反映出来る環境づくりを心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人らしさ、日々の様子が分かる記録の方法を心がけている。 出来るだけ詳細に書くように心がけ情報を共有できるよう努めている。一ヵ月ごとの確認を担当にしてもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意見を取り入れたサービスの提供につとめ、臨機応変な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中に近所の喫茶店や散歩、スーパーへの買い物など外へ出かけられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ内の病院や利用者の必要に応じて別の病院に定期的に受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問があり、気になることがあれば相談をしている。看護師が直接利用者と会話をし利用者も安心して生活をされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	異変があり次第、即座に定期の病院必要に応じて別の病院に入院できるような環境である。協力医へ定期的に受診している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医師、職員等と話し合い、事業所で出来ることを納得がいくような形で取り組んでいく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練が不足しており、実践力がつくよう、勉強などに参加して努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、定期的に防災訓練を行い災害時には即対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や表情を見て声掛の仕方や言葉使いに気を使い否定的になるような言葉をかけないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話をしやすいように言葉をよく聞き、介護者側が完結するような質問をするのではなく自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に、業務が破綻しない程度に寄り添うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の選択ができる利用者にはしてもらい本人の意思決定を大事にしている 行事や外出の時以外にも普段からなるべく化粧やマニキュア等をして気分を変えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全、衛生面に気を配りながら調理の準備、片付けをしてもらっている。 その人の出来ることにあわせて調理、盛り付け、配膳下膳をしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立に沿って調理している。 摂取量が少ない人はその人の好きなものを提供したり補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週2回の義歯洗浄をし、必要に応じて舌ブラシや歯間ブラシも使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から排泄パターンを把握してトイレへの声掛けを行っている。 自力で排泄を行ってもらい、出来ないところを介助するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように水分補給や牛乳、バナナ等の食物、体を動かしてもらう事で便秘の予防を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく一日おきに入浴できるようにしている。 拒否したときは無理に入浴してもらわずに時間をずらして声掛けをするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によって昼寝をされている方もおり、本人の体調によって休息していただいている。 一人ひとりにあった睡眠パターンを知り不眠の場合は原因を考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の内容や副作用に関する書類は職員がすぐに把握できるよう分かりやすい場所に保管している。誤薬を防ぐためスタッフ間で再チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去にやられていた事で出来ることがあれば、作品づくりや調理などに生かしてもらっている。会話や装飾作り、レクリエーション、中庭での食事など一日を楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週一回の買い物や2ヶ月に一回の喫茶外出、季節に応じた外出などを行っている。 近所の散歩や買い物など不定期に行う事もあり、希望があればなるべく取り入れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理、お金が手元にないと不安を感じている利用者には家族と相談した上で所持していただいている。 買い物をした際レジでお金を支払っていたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを家族や知人に送っている。ホームから電話もかけられるが、自分で携帯電話を持たれ家族等へご自分で連絡を取っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下、居室など季節感をあじわってもらうために、季節に合った飾り付けをしている。飾りも毎月皆さんと一緒に楽しみながら作っている。 利用者様の好みのBGMを流したりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやソファで気のあった利用者同士がくつろげる場所がある。 各ユニットにソファを2つ置いているので一人でゆっくりくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたダンスやソファなどの家具を置いている。本人の好きな飾りを部屋に飾ったり置いたりしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分からなくなる方には部屋の入り口に暖簾や飾り付けをして自分の部屋だと認識が出来るようにしている。 ADLにあわせたベッドや家具、ポータブルトイレの配置をしている。		